

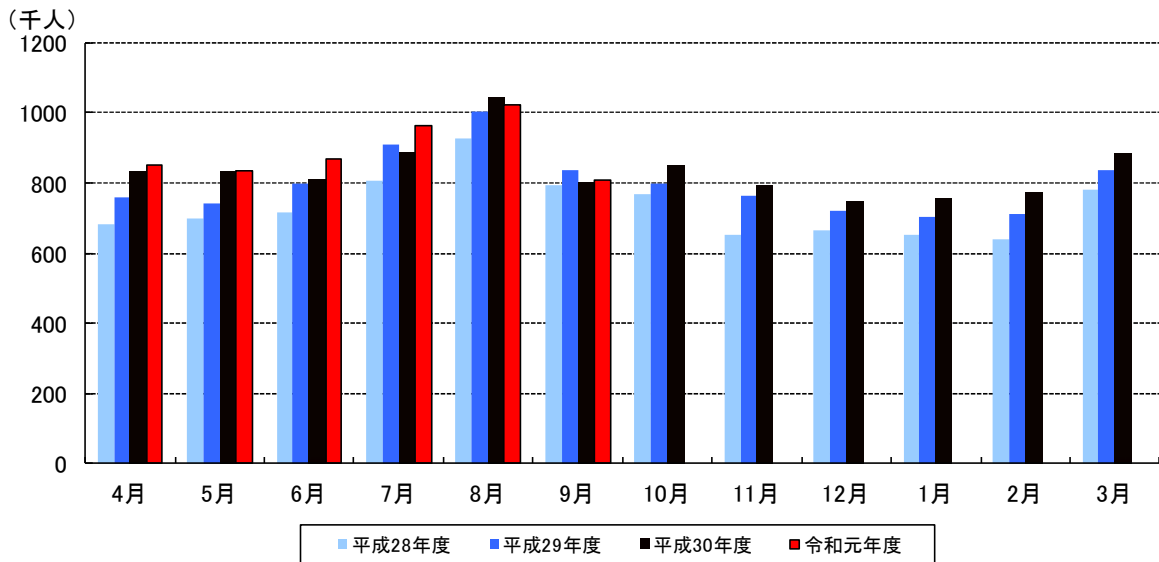
令和元年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和元年 10 月発表
(令和元年 11 月修正)

令和元年度上半期は、534 万 8,600 人で過去最高を更新
対前年度(H30)比 +14 万 6,000 人、+2.8%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 28 年度～令和元年度）



■令和元年度上半期入域観光客の状況（平成 30 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	851,400	834,900	868,200	963,600	1,021,200	809,300	5,348,600
平成30年度	833,200	830,900	809,700	885,800	1,041,500	801,500	5,202,600
増減数	18,200	4,000	58,500	77,800	-20,300	7,800	146,000
増減率	2.2%	0.5%	7.2%	8.8%	-1.9%	1.0%	2.8%

■令和元年度上半期の概況（総括）

令和元年度上半期の入域観光客数は、534 万 8,600 人となり、対前年同期比で 14 万 6,000 人増加、率にして 2.8%増となった。月別では、7 月までは対前年同月を上回るとともに、当該月の過去最高を上回る客数を記録した。8 月以降は韓国市場の減速による影響が顕在化しており、8 月については前年同月を下回る客数となった。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 行政や民間が一体となった誘客プロモーションの効果
- 国内航空路線の拡充
- 昨年は麻しん発生や自然災害の影響が大きかったことによる反動

国内観光客についての動向

■令和元年度上半期国内観光客の状況（平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	601,100	566,500	569,800	660,800	738,300	590,600	3,727,100
平成30年度	556,400	514,600	534,600	595,000	741,500	571,000	3,513,100
増減数	44,700	51,900	35,200	65,800	-3,200	19,600	214,000
増減率	8.0%	10.1%	6.6%	11.1%	-0.4%	3.4%	6.1%

■国内観光客の概況

ゴールデンウィークが10連休となり4月では初めて60万人を超えたことや、関西ー下地島（宮古）路線の新規就航等を含む航空路線の拡充（※）があったこと等から、前年を上回った。

下半期は、景気のゆるやかな回復基調が続いていることや、引き続き航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

※新規就航のあった路線：関西ー下地島（宮古）

主な増便のあった路線：神戸ー那覇、中部ー那覇

外国人観光客についての動向

■令和元年度上半期外国人観光客の状況（平成30年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
令和元年度	250,300	268,400	298,400	302,800	282,900	218,700	1,621,500
平成30年度	276,800	316,300	275,100	290,800	300,000	230,500	1,689,500
増減数	-26,500	-47,900	23,300	12,000	-17,100	-11,800	-68,000
増減率	-9.6%	-15.1%	8.5%	4.1%	-5.7%	-5.1%	-4.0%

■外国人観光客の概況

ゴールデンウィークに伴う旅行商品の高騰や、クルーズ船の寄港回数が減少したことに加え、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便等から前年を下回った。国籍・地域別では、台湾及び中国は前年並み、香港は好調に推移している。

下半期は、引き続き韓国市場の影響が懸念ことから、厳しい状況が予想される。

※新規就航等主な増便のあった路線：香港ー那覇